

## 地域住民と学校の連携

小・中学校は、災害時の収容避難場所になっており、震災以後、その役割の重要性が再認識されています。地域住民と学校が連携体制を構築しておくことにより、避難所の運営をよりスムーズにできるだけではなく、子どもを持つ家庭と学校に通う生徒・児童との意識統一が図られ、安否確認や避難行動が迅速に行えるようになります。そのため、地域住民と学校が合同で避難訓練を実施するケースが増えています。



手稲北小と星置連合町内会の合同訓練



前田中央小と近隣町内会の合同訓練

## 訓練実施内容の多様化

これまでの防災訓練といえば、消火訓練や救急蘇生訓練などが一般的でしたが、DIG<sup>※1</sup>（災害図上訓練）やHUG<sup>※2</sup>（避難所運営ゲーム）などの災害を想定した机上訓練を取り入れる町内会が増えています。



町内会の各班ごとに避難を実施  
（暁星第二町内会：稲穂金山地区）



要援護者避難を想定した訓練  
（夢トピア星置町内会連合会）

また、避難訓練も、災害時を想定したより実践的な内容に変化しています。訓練内容を多様化させることにより、参加者の慣れを防止し、さまざまな事態に対応する知識が自然と身に付いていきます。

※1 DIG とは … Disaster（災害）Imagination（想像力）Game（ゲーム）の略。参加者が大きな地図を囲み、地域で起こるかもしれない災害を想像しながら書き込みを加え、災害時の対応を考える訓練。

※2 HUG とは … 避難所（Hinanjo）運営（Unei）ゲーム（Game）のローマ字表記の頭文字を組み合わせた略称。避難者の年齢、性別やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所に見立てた図面にどれだけ適切に配置できるか、また、避難所で起こるさまざまな出来事にどう対応していくかなど、避難所運営の模擬体験をする訓練。



DIG（災害図上訓練）の様子  
（三晃町内会：前田地区）

## 非常持ち出し品を用意しよう

万が一に備え、必要なものをすぐ持ち出せるように用意しましょう。用意ができたなら、忘れていたものは無いか、チェックしてください。

- ☐ 食料・飲料水（3日分）※水は1人1日3ℓ
  - ☐ 携帯用ラジオ ☐ 懐中電灯 ☐ 下着 ☐ 軍手
  - ☐ 持病の薬 ☐ 救急セット ☐ 現金・貴重品
  - ☐ 乳幼児用品 ☐ 予備メガネ
- 冬期間は、寒さをしのぐ準備も必要になります。
- ☐ 防寒具（スキーウエアなど） ☐ 毛布 ☐ カイロ
  - ☐ 寝袋 ☐ 長靴 ☐ 衣類（厚手の長袖、長ズボン）



地震や風水害の対策や家庭での事前準備についてまとめた小冊子「防災は日ごろの備え心の構え」を配布しています。

小冊子を参考に、各家庭における防災への備えを確認してみましょう。「備えあれば、憂いなし」です。

**配布場所** 区役所1階11番窓口（広聴係）、3階 総務企画課  
市役所6階危機管理対策室、消防署（出張所を除く。）など